

10月21日12時時点

柏原議員（維新会）

鶴見区選出（持ち時間：9分）

日本維新の会・無所属の会の柏原すぐるです。どうぞよろしくお願いたします。
委員長、スライドの許可をお願いします。

(1) はじめに子育て応援アプリ「パマトコ」について伺います。

1. こちらのスライドの通り、パマトコはあらゆる子育て世帯の利用が想定されています。私自身も登録しましたが、7月にWeb版がリリースされて3カ月経過しましたので、まず利用登録や申請件数の実績を伺います。
2. サービスをリリースしてからユーザーからの声をアプリ開発に活かしていくと聞いていますので、次に利用者アンケート等を踏まえたサービス開発への反映状況を伺います。
3. 現在は登録者に対してメール通知があります。実際、先日に届いた乳がん検診に関するお知らせを妻に共有するなど意義も感じていますが、プッシュ通知疲れの子育て世帯に対しては、選別された情報を届けることが重要です。
そこで、不要な情報が大量に届くことのないよう、アプリからプッシュ通知する内容及びその頻度や対象者等について基準を設けるべきと考えますが、局長の見解を伺います。

1:05

(2) 次に5歳児健診について伺います。

1. 本件については、昨年度の決算総合審査で我が党の伊藤議員が本市会で初めて言及したと認識しておりますが、こちらのスライドの通り、子ども家庭庁においても、幼児期に就学に向けた準備を進めていく観点から、昨年度の補正予算からメニュー化され、普及を図っている状況です。
そこで、まず5歳児健診を実施することの意義を局長に伺います。
2. 3月の常任委員会における伊藤議員の質問に対して、「市民ニーズを把握し、他都市の事例も踏まえ研究していく」主旨の答弁がありました。まだ、途上ではあると思いますが、他都市事例を検討していく中で見えてきた5歳児健診を実施する上での課題を局長に伺います。

今後は他局や関係機関との連携を一層進め、早期の事業実施へ向けた準備を要望します。

2:00

(3) 次に横浜型児童家庭支援センターについて伺います。

令和6年第3回市会定例会 決算特別委員会局別審査（こども青少年局）

1. 同支援センターは、保護者や子どもたちに寄り添い、専門的な相談や日中預かり・宿泊を伴う預かり等のサービスを提供する重要なセーフティネットです。

まず、横浜型児童家庭支援センター設置の経緯と補助制度について伺います。

2. 18区に設置されたことは望ましいですが、地域により支援ニーズが異なるなど事業推進には課題があるものと考えています。

そこで、相談や子育て短期支援事業の令和5年度の実績及び傾向を伺います。

3. スライドをご覧ください。同センター運営費補助は、左の相談種別リストに示された相談実績に基づいて補助費が連動する仕組みです。右側の区分表通り相談実績4,400件以上は補助費が上限に達する制度であるため、これが壁となってしまい、区役所や児童相談所からの相談を断っているという事例も聞いています。実際、この4,400件を超える区が7区あり、中には6000件を超える区もあるとのことから、事業者負担を強いると共に、支援ニーズを拾い切れていないことが危惧されます。

そこで、地域ごとに異なるニーズを拾える制度設計や補助の在り方を考えるべきと思いますが、局長の見解を伺います。

市単独予算も含めた事業の拡充を要望します。

3:20

- (4) 次に放課後キッズクラブ・放課後児童クラブにおける長期休暇中の昼食提供について伺います。

1. 本事業は昨年度の調査で9割以上の保護者からニーズがあるなど、周りの保護者の間でも「助かる」との声が聞かれ、期待の事業でした。

まず、昨年度実施した放課後の充実に向けた調査を基にした利用想定食数及び今回実施した食数実績を伺います。

2. 一方、本事業を利用した卵アレルギーのある児童に嘔吐が見られた事案については、信頼を損ねる事案であり看過できません。そこで、本事案に対する総括を伺います。

3. 私にも様々な声が届きますが、今度の冬休みや春休み、来年度に向けては、子どもたちや保護者、施設運営者、昼食提供者などの声をしっかりと聴いて、速やかに事業を改善していくことが重要です。

そこで、ニーズを的確に捉えた安心で持続可能な仕組みづくりを進めるべきと考えますが、局長の見解を伺います。

4:20

- (5) 次に小学生の朝の居場所づくりモデル事業について伺います。

令和6年第3回市会定例会 決算特別委員会局別審査（こども青少年局）

1. まず、今回のモデル実施の内容及び事業の利用状況をお聞きします。
2. 今回は新学期後の朝のリズムが定着する7月の開始ということから、利用が伸びていない可能性も想定されます。
そこで、早めれば来週にも始まる就学時検診や2月の学校説明会での周知など、保護者の新学期の備えが始まる前に事業が伝わる仕組みに改善すべきと考えますが、見解を伺います。
3. 地域特性という観点では、今回のモデルエリア「美しが丘」のある青葉区と鶴見区を比較すると、乳幼児の人口は青葉区の方が多いですが、保育所の利用者は鶴見区の方が多いというように、子育てに対するニーズが区や地域により異なります。
そこで、モデル実施の結果分析と共に、地域特性を捉えるためにモデル実施の対象を早期に全市展開すべきと考えますが、局長の見解を伺います。

5:14

(6) 次に結婚応援セミナーについて伺います。

1. まず、事業開始の経緯及び令和4年度・5年度の実施状況を伺います。
2. こちらのスライドはセミナーの案内です。結婚応援セミナーの参加者数の目標200人に対して、昨年度は広報を強化し決算額が増えておりますが、十分な改善は得られていないと理解しています。この結果に対する要因をどのように分析しているか伺います。
3. 若者を後押しする支援策という意味では応援したいですが、本事業は国や県、民間サービスとの類似・重複はないか、効果的なのか疑義があります。そこで、本市における事業の必要性・独自性の認識と今後の方向性について局長に伺います。
効果的な施策への転換をぜひ検討ください。

(7) 次によこはま型若者自立塾事業について伺います。

1. 本事業は令和5年度から事業実施方法も変わったと聞いています。
そこで、まず事業スキーム変更の内容と利用実績の推移を伺います。
2. こちらのスライドは事業のパンフレットです。
続けて伺いますが、令和5年度は、実利用数が想定115人に対し実績22人と大幅に下回ったとのことですが、その要因の分析と事業効果への評価を伺います。
3. 他方、市内のひきこもり状態にある15～39歳の方の推計人数が令和5年度には13,000人に達するなど、自立支援が必要な若者のニーズは増えています。

令和6年第3回市会定例会 決算特別委員会局別審査（こども青少年局）

そこで、利用者数の低迷を踏まえ、他の若者自立支援施設とのすみ分けも含めて、今後の事業のあり方を局長に伺います。

検討をお願いします。6:45

(8) 次に野島青少年研修センターについて伺います。

1. こちらのスライドは同センターや周囲の写真です。後ほど再度投影します。こちらは、野島におけるセンターの位置を示します。

そこで、まず野島青少年研修センターのコロナ禍前と比較した直近の利用実績の推移を伺います。

2. スライドを戻しますが、左下が同センターの建物の平面図で宿泊室は25室あります。事業報告書を拝見しますと、稼働率の考え方が一日に一室でも利用があれば、その日の稼働率が100%となるような計算方法となっており、各宿泊室の稼働状況を示すような指標がありません。また、他の施設を多く管理する横浜市スポーツ協会の報告の仕方と異なっており、ミスリードに繋がります。

そこで、利用実績が客観的に誤解なくデータとして取り扱えるように見直すべきと考えますが、局長の見解を伺います。

3. 事業報告書では、施設近隣での大型バスの乗降が禁止になった影響により今年度は小中学校の宿泊体験学習利用が20校減少したと報告されています。これ対しても公園とセットで管理できれば、例えば Park-PFI により民間資金で駐車場や車路を整備することや、施設を充実させるなど「場」としての価値を一層向上させることも可能だと思います。

そこで、野島のポテンシャルを發揮するため、まずは現在の管理体制下でも野島公園との運営管理上の連携をより積極的に行うべきと考えますが、局長の見解を伺います。

8:25

最後に副市長に伺います。こちらのスライドは昨年この決算審査で使用した横浜市の宿泊体験できる施設の一覧です。各施設の事業報告書等から令和5年度の利用率等を更新しました。なお、群馬にある赤城（あかぎ）林間学園は今年度、市内学校からの利用はなかったそうです。

民間や他自治体にも同様の施設がある中で、最適な公共資産の活用ができていますでしょうか。そこで、宿泊体験のできる施設については、引き続き局横断で施設の在り方を検討すべきと考えますが、副市長の見解を伺います。

野島における一体的な運営を含め、公共資産の有効活用を改めて要望し、質問を終わります。